

園長あいさつ

2026年シーズン開園に向けて

園長 本間 弘生

大森山動物園は3月20日から、2026年の通常開園が始まります。

春の訪れとともに、動物たちの動きも一段と活発になり、来園者の皆さまにとって、命の息づかいをより身近に感じていただける季節となります。

本年度も、多くの方々安心して楽しい時間を過ごしていただける動物園となるよう、職員一同取り組んでまいります。

さて、2025年は当園において飼育中のツキノワグマが脱走するという、あってはならない事案を発生させてしまいました。

市民の皆さま、関係者の皆さまには大きな不安とご心配をおかけしたことを、あらためて深くお詫び申し上げます。

本事案を重く受け止め、当園では、動物展示・飼育施設の管理マニュアルや点検方法の見直し、施設・設備の改善、職員研修の強化など、再発防止に向けた取り組みを進めてまいりました。

安全の確保は、動物園として最も基本的かつ重要な責務です。今後も決して気を緩めることなく、不断の改善を続けてまいります。

また、4月1日から入園料金の改定を行わせていただきます。

物価やエネルギー価格の上昇が続く中、動物たちの健康管理や飼育環境の維持・改善、動物園としての魅力向上、安全対策の充実を図るためには、来園者の皆さまに一定のご負担を

お願いせざるを得ない状況となりました。

なお、こうした中であっても、当園における子どもの学びと体験は、利用する子どもたちだけの「私的な受益」ではなく、社会全体が将来にわたって利益を受ける「公共的な受益」であるとの立場から、子ども料金は引き続き無料といたします。

皆さまにはご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

大森山動物園は、憩いの場・レクリエーションの場であると同時に、命の大切さや自然との関わりを学ぶ公共の施設です。

これからもこうした役割や動物福祉を大切にしながら、安心してご来園いただける動物園づくりに努めてまいります。

新しいシーズンも、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。



間近で見るアムールトラに目線がくぎ付けの子どもたち

ツキノワグマの脱走について

参事兼園長補佐 三浦 匡哉

2025年11月21日に当園で飼育中のツキノワグマが脱走した事案について、経緯や原因、再発防止策等を報告いたします。

今後このようなことがないよう、安全管理体制の強化と再発防止に努めてまいります。

1 経緯について

- (1) 11月21日午後1時30分頃、当園内でクマの目撃情報があったことから、その後、速やかに来園者を避難させるとともに、警察等への通報などを行いました。
- (2) 同日の午後3時20分頃、飼育中のツキノワグマ、ルビーが展示場にいことが判明し、この時点でルビーの脱走である可能性が高いと判断しました。
- (3) 同日の午後7時頃、園内で麻酔のうエルビーを捕獲しました。クマ舎に収容後、マイクロチップによりルビーであることを確認しました。
- (4) 本事案の原因と安全管理体制の確認のため、11月22日から25日までの4日間、臨時休園としました。
- (5) マニュアルの見直しなどを行い、安全管理体制を整えたうえで、11月26日から動物園を再開しました。

2 脱走の原因について

- (1) 脱走前日の11月20日、飼育員が日常の作業では使用することのないツキノワグマ展示場の動物搬入作業扉を開錠し、展示場内の清掃作業等を実施しましたが、作業終了後、扉の施錠を失念したものです。
- (2) 脱走当日の11月21日、前日とは別の飼育員が、ツキノワグマの展示開始に向けた準備作業を行いました。

動物搬入作業用扉の施錠の確認をせずに動物を展示場に出したため、その後脱走したものです。

3 再発防止策について

(1) マニュアルの修正や安全管理の徹底

以下のとおりマニュアルを修正するとともに、研修などを通じて職員に安全管理の徹底を指示しました。

- ① 現在、ツキノワグマは1頭での飼育であり、飼育員1人で作業を行っていましたが、他の猛獣と同様、飼育員2人で作業することを明記しました。
- ② 通常作業では使用しない扉に対しても、作業手順を明記しました。
- ③ 飼育舎の出入口の扉および飼育員の作業スペースに、施錠確認等の注意を促すため、指差し確認等の注意事項を掲示しました。
- ④ 園内に外部から野生動物が侵入した場合の来園者の安全確保のほか、速やかに飼育動物を確認することを明記しました。

(2) 施錠確認方法の強化

動物搬入作業用扉の施錠確認を確実にを行うため、クマ舎にアラーム式の開閉警報器を試験的に設置しました。



ツキノワグマ展示場



ツキノワグマ(ルビー)

こんにちは！あかちゃん

2025年8月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。

ホンドリス4頭

5月に続き、8月23日と9月3日に2頭ずつ生まれました。残念ながら8月23日に生まれた2頭は亡くなってしまいましたが、5月に生まれた4頭とともに、リス舎がとても賑やかになりました。



仲間入りした動物たち

カピバラ ぎんた♂ ほわいと♀、 ミーアキャット ゆかり♀、エミュー 燦♀

10月27日に伊豆シャボテン動物公園からカピバラのぎんたとほわいと、ミーアキャットのゆかり、エミューの燦がやって来ました。これまで暖かい伊豆で過ごしてきたので、早く寒い秋田に慣れてほしいです(ぎんたは、残念ながら12月28日に亡くなりました)。



カピバラ(ほわいと♀)



エミュー(燦♀)



ミーアキャット(ゆかり♀)



ニホンコウノトリ

11月27日に東京多摩動物公園からニホンコウノトリのペアがやって来ました。大森山ではオスのコウノトリが1羽だけになっていましたが、繁殖に取り組むために、新たなペアを導入しました。今後は他の動物園で生まれた有精卵を秋田に移動し、孵化させることにもチャレンジしてみたいと考えています。



このほか、セキセイインコ、コザクラインコのオスそれぞれ1頭、モルモットのオス1頭メス1頭が仲間入りしました。

大森山動物園を

後にした動物たち

マーコール みつまめ♀、 ところてん♀、クリーム♀

この3頭は2024年5月31日に大森山動物園で生まれました。3頭ともお父さんはサスケですが、ところてんとクリームのお母さんはゆべし、みつまめのお母さんはくるみです。

カピバラ、ミーアキャット、エミューとの交換で、10月28日に伊豆シャボテン動物公園に向けて出発しました。



このほか、モルモットのキウイ(オス)が仙台市八木山動物公園へ引っ越ししました。

忘れないよ… 訃報

ミニブタ トン平♂

トン平は、2006年に同い年のトン吉とともに2か月齢で岩手大学から来園しました。すくすくと成長し、飼育員のトレーニングにより、お座りやお散歩、フリスビー遊びなどができるようになり、人気者になりました。トン吉が2020年に亡くなった後も元気に過ごしていましたが、秋田県内でもブタの伝染病である豚熱が確認されるようになったため、展示が難しくなっていました。亡くなる直前まで食欲は衰えず、量こそ減りましたが、エサを楽しみにしていました。2025年11月14日に19歳で亡くなりました。大往生でした。

(トン平の詳細については9ページの「動物病院から」にも記載しています。)



マーコール サスケ♂ くるみ♀

サスケとくるみは、ともに2014年に生まれました。サスケは当園で生まれ育ち、くるみは川崎市夢見ヶ崎動物公園で生まれ、2018年に来園しました。2頭の間には何頭も子どもが生まれ、賑やかなマーコール一家を築きました。サスケは立派な角で若いオスを圧倒し、リーダーとして君臨していました。一方で、小柄なくるみは、仲間を追われてエサをゆっくり食べることができず、痩せてきたこともあり、サスケやほかの仲間とは分かれて暮らしたり、動物病院に入院したりする時期もありました。サスケは10月6日に、くるみは10月26日に亡くなりました。



この他、スバルバラライチョウ、ワオキツネザル、ニホンザル、ブラッザグエノン、アカカンガルー、プレーリードッグ、コモンマーモセット、チリーフラミンゴ、カピバラなどが亡くなりました。

飼育動物数 (12月末時点)

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	無脊椎動物	合計
46種 306点	25種 123点	12種 25点	3種 8点	1種 41点	1種 23点	88種 526点